コロナで、大名に遊びに行きたくても行けないからとても悲しいです・・・。

・・・と、お客様からとても嬉しいお言葉をいただきました。そこで今回は、大名店舗を案内させて頂きます。

まずは玄関!
こちらが入口です。

入り口から入って右側にずらりと鎧が並んでいます。
只今こちらに並んでいるのが13両。また、展示している鎧以外にも常時沢山の鎧があります。

私が好きな鎧は、和歌山城にも展示されていたこちらの具足
「鉄黒漆塗金箔押紺糸縅二枚胴具足」
時代は江戸。状態も良く、和歌山城にも展示されていた鎧です。
金の鎧ですが派手派手しくなく、シュッとしたかっこいい鎧だと思います。

ガラスケースの上には
兜がずらりと並んでいます。
気に入った兜へ前立をカスタマイズするのもいいですよ。

ガラスケースの中には
鍔がずらりと並んでいます。
種類、サイズも豊富なので
お気に入りの商品が
見つかるかも。

中央に机と椅子があります。貴方様とのくつろぎスペースです。
甲冑に囲まれながら、時間を忘れて一緒にタイムスリップしてみませんか？気分は、部下を従えた戦国大名！

コロナが終息し、落ち着いたらぜひ大名へお越し下さい。目で見て触れて、貴方様だけの特別な宝物を探しに来て下さい。
大名一同、心よりお待ちしております。

今号の大和魂はいかがでしたか？ 皆様のご意見・ご感想どしどしお寄せください。お待ちしております。

件名：ニュースレター返信と入力して送信して下さい。

有限会社 大名

最新情報はこちらから ホームページ https://daimyou.com/

広島県尾道市栗原町2-1 3F　Eメール sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp

TEL.0848-29-3936　FAX.0848-29-3937

届けますっ！ 大和魂

2021年8月 Vol.43

経営理念

有限会社大名は「届けますっ大和魂！」を合言葉に
日本の歴史、古美術を発信し、貴方（お客様）の
趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します

夏といえば！五節句*の一つ「七夕」

（*1/7七草の節句、3/3桃の節句、5/5端午の節句、9/9菊の節句）

こんにちは、島谷貴子です。
暑い日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか？
昼間より、すこ～し涼しくなる夏の夜空を見上げながら、子供たちと織姫様と彦星様に思いを馳せてみました。

奈良時代に中国から伝わった七夕と、日本にある「棚機津女の伝説」* が合わさって出来たとされています。
初めは宮中行事として裁縫・機織りの上達を願い、梶の葉に書いていました。その後、江戸時代に正式にご節句となりました。庶民の間に広がり、五色の短冊に色々な願いを書いて笹につるし、星に祈るお祭りへと変わっていきました。

＊ 天から降りてくる水神に捧げる為に神聖な布を織り、水辺で水の神を迎えた女性が禊をし、神は町や村に豊穣をもたらし厄災を持ち去るといわれている。

七夕飾りの意味

- 吹き流し：はたお 機織りやお裁縫の上達を願う（宮中儀式で、五色の糸を針に通してお供えしていたものを、紙で表現したもの）
- くずかご：清潔、倹約を意味
- 網飾り：大漁を祈願
- 折鶴：家内安全や、長寿を願う
- 巾着：金運の上昇や、貯蓄を願う
- 紙子：裁縫の上達を願う、病気や災いの身代わりになってもらうという意味

七夕って年に一度のデートをするおりひめ様とひこぼし様のことでしょ？

皆様、織姫様と彦星様の伝説をご存知ですか？色々な国や地域で語られている伝説ですが、今回なロマンティックな伝説を取り上げてみました。
天の神様の娘の織姫様は、なりふり構わず毎日一生懸命働いていました。
そんな娘が不憫でならなくなった神様は、婿探しを始めました。
真面目な若者の彦星様と出会い、娘を幸せにしてくれるだろうと思い、結婚させました。二人はとても仲良く暮らしましたが・・・
今までの二人の真面目さが一転、仕事もせず毎日遊んで暮らすようになりました。
神様が働くように伝えても、遊んでばかりいました。怒った神様は、二人を引き離してしまいました。悲しみに暮れた二人は、ますます働かなくなりました。
どうしたものかと思い、もし毎日以前のように働くなら、年に一度の7月7日に会えるように約束をしました。すると二人は真面目に働き始めたのでした。そして、二人は七夕の日に「再会」という願いが叶います。

三女

そうそう！女子たるもの ロマンティックな恋に憧れるよね～

島谷

一年に一度しか会えないけど、その願いの為に頑張ってるんだね！すごいな～

次女

すごいよね！ほんと、愛の力だよね～

長女

二人のように、願い事がかないますようにと、私達も短冊に願い事を書きました。
今までは、短冊に願いを書いて終わりでした。今回子供達と一緒に飾り物にも一つ一つ、意味があること知り、学べたことがとても良かったです。私の願いはただ一つ、
「こうして子供達といつまでも幸せが続きますように」

こんにちは。中堀明美です。
前号に引き続き今号では「天下三名槍：蜻蛉切」について
語らせて頂きます。（天下三名槍…日本号(Vol.41参照)御手杵(Vol.42参照)蜻蛉切）

語ります 大和魂

蜻蛉が真っ二つ!?

戦場で槍を立てていた所、たまたま飛んできた蜻蛉が穂先に止まると、真っ二つに切れてしまい、「蜻蛉切」と呼ばれるようになりました。

号 蜻蛉切（個人蔵：佐野美術館へ寄託）

時代 室町時代

刃長 43.7cm/重量約499g

銘 藤原 正真（三河文殊派）

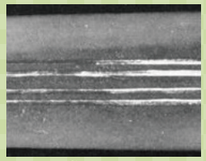
伊勢国（三重県）と三河国（愛知県東部）で作刀していました。
本多一族が田原城主（現在:愛知県）となった関係で、正真に蜻蛉切の制作を依頼したとされており、忠勝が16歳の頃には所有していたと言われています。

特徴（古文書参考）

①笹穂槍平

三角造りの笹の葉のような形

②地鉄：杢目



樋（ひ）が四本

③地鉄：板目に柾がかり

④刃紋：互（のた）の目に湾れ交じり

⑤彫

蓮花

ふどうみょうおう 不動明王

くりからけん 倶利伽羅剣

じぞうぼさつ 地蔵菩薩

せんじゅかんのん 千手観音

ようりゅうかんのん 楊柳観音

を表す梵字

本多忠勝 愛用

忠勝は鋭い切れ味を誇る蜻蛉切で、多くの戦を無傷で駆け抜けてきたと言われています。通常の長槍の柄は平均4.5m程ですが、蜻蛉切の柄は6mもありました。忠勝の技量がずば抜けていたから、この長さが扱えたのでしょう。忠勝は、徳川家康の側近として多くの功績を立て、徳川四天王と呼ばれるようになりました。

1570年、姉川（あねがわ）の戦いで、織田・徳川連合軍は敵陣の浅井・朝倉連合軍の戦術に翻弄され、本陣付近まで侵攻されてしまいます。絶望的な状況でしたが、忠勝は突破口を開くため、蜻蛉切を片手に単独で朝倉軍の正面から突入しました。これを見た徳川軍が、忠勝を討たせてはならないと奮起、他の徳川軍が側面から突撃を行ない、浅井・朝倉連合軍を討ち崩しました。信長はこの戦で逆転勝利に導いた、忠勝の事を「花実兼備（かじつけんび）の勇士（見ためばかりでなく、中身も充実している）」として称賛しました。そう評されたのは、甲冑が黒糸縅で、鹿角の大脇立と大きな数珠をつけてたからです。

徳川四天王
「本多忠勝」「榊原康政」「酒井忠次」「井伊直政」

忠勝にとって蜻蛉切は相棒だったのですね。
無傷で戦い抜いたのは持っているだけで自信が沸き、蜻蛉切りがあれば負けるはずがない!!と強気でいられたからではないでしょうか。晩年には体力が落ちた為、柄の寸法を現状の体力に合わせて短くして戦いやすくしていたそうです。
最後の最後まで一戦士であろうとする、忠勝の大和魂を感じました。（中堀）

ハナエモンの タ〜イムスリップ!

今号も目まぐるしい時代の変化の中、一介の家臣から大名に、
そして、浪人生活を経て、大名に帰り咲いたこの方にタァ〜イムスリップ！

実父は風神、養父は雷神
立花宗茂
たちばな むねしげ　1567〜1643年　75歳

豊後国（現在の大分県）に最盛期には6カ国を領した大友家の重臣・吉弘鎮理（のちの高橋紹運（たかはしじょうう））の長男として生まれた。
その後、父と同じく大友家の双璧であり、男児がいなかった立花道雪（たちばなどうせつ）に才能を買われ、養子となります。800名弱で40,000人に挑んだといわれる、武勇に優れ義理に篤い人物と云われた風神こと実父・高橋紹運。生涯百戦百勝したと云われる雷神こと養父・立花道雪。そんな凄い二人に薫陶を受けた宗茂は、東の忠勝（本多忠勝（ほんだただかつ））、西の宗茂と呼ばれる名将に成長していきます。

一家臣から、大名に

1586年（19歳の時）、九州統一を目指す島津家が大友家を滅ぼす為に、4万とも5万ともいわれる大軍で北上してきます。
困った大友家は、九州征伐に動き出した豊臣秀吉に臣従します。前年に、養父・道雪が病死した影響もあり、大友家は劣勢に立たされます。
更に実父・紹運は、壮絶な徹底抗戦の末、800名弱の将兵全員と共に討ち死にをします。紹運との戦いで疲弊していた島津軍は撤退します。そこに宗茂が追撃をしかけ、数百の首級を挙げ、さらに2つの城を取り返します。
その後、秀吉の九州征伐の西部戦線の先鋒として次々に手柄を立て、筑後国柳川（福岡県柳川市）に13万2000石を与えられ、家臣から大名へと出世を果たします。

朝鮮軍・明軍と戦った文禄・慶長の役

豊臣政権下でも、文禄・慶長の役（25歳の時）で大いに活躍をします。5万余りの朝鮮軍を4千の軍勢で撃退し、ある激戦では、甲冑・騎馬まで返り血で血まみれになり、刀が歪み、鞘に戻せなくなるほど大暴れをし「鬼神」「鬼将軍」「日本無双の勇将」と称えられます。
約3万の明(現在の中国)・朝鮮軍に包囲され窮地に陥った日本軍は、打開策が見出せず連日作戦会議を行っていました。「評定(会議)のみに時間を割いても無駄でしょう!私が救援してきますっ!」と宗茂が、千の兵で夜襲を行い、見事日本を救いました。

関ヶ原で浪人に・・・

関ケ原の戦い（33歳の時）では、西軍に付いたことで改易され、一浪人になってしまいます。京都・江戸などで蟄居生活をします。ようやく1604年（37歳の時）、本多忠勝の推薦で、徳川家康の家臣となります。家康も宗茂の実力を知っていたので重宝され、大坂夏の陣での動向の予言を的中したり、徳川幕府への反乱事件を防いだりと活躍した事を評価され、1620年（53歳の時）旧領の柳川10万9200石を与えられました。

関ケ原で改易された武将で旧領に大名として復帰したのは、宗茂ただ一人だそうです。それだけでも、宗茂が優秀な武将だというのが伝わってきますね。日本無双、鬼将軍と呼ばれて怖そうなイメージになりますが、普段の宗茂は温厚な性格で、誰に対しても誠実な武将だったそうです。関ケ原で改易される時も、領民たちから、最後の一人になるまで戦いましょう！と言われるほど、慕われていたそうです。旧領に復帰できたのも数々の活躍もありますが、その人柄によるところが大きいかもしれませんね。